

論文名 : Higher pulse pressure predicts initiation of dialysis in Japanese patients with diabetes (糖尿病患者における脈圧が透析導入に及ぼす影響の検討)

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 大澤 妙子

透析導入は、糖尿病(DM) 患者の QOL を低下させるだけでなく、生命予後を悪化させるため、リスク因子の解明が重要であるが、末期腎不全に限定したリスク因子の検討は少ない。高血糖と脈圧(PP) を含む血圧指標は、糖尿病腎症の発症・重症化のリスク因子であるが、DM 患者の末期腎不全に限定したそれらのリスクの大きさや目標閾値はまだ明らかでなく、特に PP と透析導入の関連を検討した報告は極めて少ない。DM 患者において、血糖・血圧コントロールが共に不良な群では糸球体濾過量(GFR) が低下するが、PP とこれらの組み合わせにより、透析発症リスクがどれほど上昇するかも明らかではない。そこで申請者らは、DM 患者における透析導入のリスク因子及び PP が透析導入に与える影響を検討した。更に、HbA1c、SBP、PP の組み合わせが透析導入に及ぼす影響を検討した。

対象は、2008-13 年に日本全国から収集された診療明細書データのうち、3 年以上追跡可能であり、血糖正常者及び耐糖能障害者を除外した、19-72 歳の 18,935 名(男性 15,789 名、女性 3,146 名) の DM 患者。平均観察期間は 5.3 年、観察期間中に 93 名(0.49%)が透析導入に至り、発症率は 1000 人年あたり 0.81 であった。透析導入群は透析非導入群と比較し、男性の割合、BMI、SBP、DBP、PP、HbA1c、虚血性心疾患既往がそれぞれ有意に高値、HDL-C が有意に低値であった($P<0.05$)。SBP 及び PP が 1SD 上昇すると透析導入のリスクは、それぞれ 1.09 (95%CI:0.81-1.48)、1.54 (1.14-2.08)倍に上昇した。HbA1c<8%かつ PP<60mmHg 群に対する HbA1c \geq 8%かつ PP \geq 60mmHg 群の透析発症のハザード比は 6.32 (3.42-11.7)であった。

DM 患者において、SBP と PP は独立した透析導入のリスク因子であり、PP の影響は SBP より強いことが判明し、動脈硬化の進展が透析導入に関与している可能性が示唆された。また、SBP \geq 140mmHg、PP \geq 60mmHg、HbA1c \geq 8%のうち、複数の条件を併せ持つと透析導入リスクが増大したことから、透析導入予防のためには、血糖管理と共に脈圧を含めた血圧管理が重要である可能性が示された。本結果が透析導入に及ぼす影響をより明確にするために、他のリスク因子を考慮し、更なる検討が必要である。